

## 第2部

# 事業の総括評価



# 令和元年度 地域課題対応人材育成事業 「地域コアリーダープログラム」総括評価

## 1 趣 旨

多様な個人が能力を発揮しつつ、自立して共に社会に参加し、支え合う「共生社会」を築いていくためには、地域住民や非営利団体などによる社会活動の充実が必要不可欠であるという認識のもと、地域課題対応人材育成事業「地域コアリーダープログラム」では、高齢者関連活動、障害者関連活動及び青少年関連活動の各分野において社会活動に携わる日本青年を海外に派遣している。また、海外の非営利組織などで活動する青年リーダーを日本に招へいし、国内での相互交流を通じて、地域における社会活動の中心的担い手となる青年リーダーの能力の向上と、各国、各分野間のネットワークの形成を図ることを目的として実施している。（※）

令和元年度は、オランダ、イタリア及びフィンランドの3か国を相互交流の対象国として実施した。

「日本青年派遣」では、高齢者関連活動に携わる青年をオランダ、障害者関連活動に携わる青年をイタリア、青少年関連活動に携わる青年をフィンランドに、総勢27名派遣した（団長を含む）。

「外国青年招へい」では、上記3か国から高齢者・障害者・青少年関連活動に携わる外国青年を総勢27名招へいし、同関連分野で活躍する青年と日本青年を含む4か国による多国間交流を行った。

日本青年の育成の観点から、内閣府青年国際交流事業の共通の目的は「国際社会の各分野でリーダーシップを発揮し、社会に貢献する青年を育成する」ことであり、本事業ではこれに加えて、非営利団体の運営能力向上及び専門分野の知識の向上、並びに3分野が連携するネッ

トワーク作りを目指している。

本事業では、以上の目的を達成するため、関連分野の課題に応じて総合テーマを定めるとともに、派遣団については、団ごとにテーマを設定して取り組んでいる。その上で、テーマに沿った訪問国及び地方行政からの関連施策の概要説明、表敬訪問、先進的・特徴的な社会活動現場や関連施設への訪問、同施設関係者などの意見交換、ホームステイなど、様々なプログラムを実施し、中でも、関係者との情報交換や意見交換を重視している。こうしたプログラム内容については、毎年度、交流対象国に対して要望を出しながら、見直しを行っている。

また、「外国青年招へい」では、多国間での情報交換と日本の現状について理解し、発信することが可能な内容に組み立てるべく、三つの関連活動の非営利分野で活躍する日本青年と外国青年が一堂に会してNPO事情や活動事例に基づく議論を行う「NPOマネジメントフォーラム」を実施している。その他にも、活動分野ごとに日本の地方都市を訪問する地方プログラムを実施している。

本年度事業の成果を測るため、派遣青年及び外国参加青年全員を対象として事業終了時にアンケート評価を行った。アンケート評価の数値基準は、5段階評価（評価の高い方から5～1）を基本とした。

本報告書では、「日本青年派遣」及び「外国青年招へい」に分け評価する。

※ 本事業は、平成27年度まで、「青年社会活動コアリーダー育成プログラム」として実施された。

## 2 評価結果

### 1. 日本青年派遣事業の達成度

#### ① 訪問国の専門分野事情への理解

「訪問国政府又は関連機関からの説明」に関して、5段階評価の3（ある程度有益だった）以上と回答した日本青年は96%であり、4（有益だった）の回答は79%であった。

#### ② 訪問国の非営利団体への理解

「非営利団体の訪問時のプログラム内容」に関して、3（ある程度有益だった）以上と回答した日本青年は92%であり、4（有益だった）以上は88%、5（大変有益だった）の回答は54%であった。

### ③ 参加者間のネットワーク

「訪問国における関係者との関係構築について」という問いに対して、3（ある程度構築できた）以上と回答した日本青年は96%であり、4（構築できた）以上は75%、5（よく構築できた）の回答は25%であった。

「同分野の派遣青年と、今後につながるネットワークを深められたと思いますか」という問いに対して、3（ある程度構築できた）以上と答えた日本青年が100%で、4（構築できた）以上は83%、5（よく構築できた）の回答は54%であった。

### ④ 事業参加による参加青年の将来への影響

「地域における社会活動の中心的担い手として活躍していくことに対し、意欲が増しましたか」という問いに対して、3（ある程度増した）以上と回答した日本青年は100%であり、4（増した）以上は96%、5（とても増した）は63%であった。

「派遣プログラムは、あなたの将来に役立つか」という問いに対して、4（役立つと思う）以上と回答した日本青年は100%であり、5（とても役立つと思う）以上は88%であった。

### ⑤ 日本参加青年の成長（自己評価の向上度）

本事業に参加したことで向上した個人の能力について、アンケートをもとに検証したところ、「ネットワーク」「対話力」「調整力」「課題分析能力」「情報収集力」「コミュニケーション能力」「ディスカッション能力」「グローバルな視野」「他者と協働する力」などの回答が得られた。

## 2. 外国青年招へい事業の達成度

### <NPOマネジメントフォーラム>

#### ① 非営利団体の運営能力

「今後自分の団体や地域における活動にあたり役立つ学びを得られましたか」という問いに、外国青年の回答は3（ある程度得られた）以上が85%、4（得られた）以上は63%であった一方、日本参加者の回答は3（ある程度得られた）以上が84%、4（得られた）以上は68%であった。

「地域のコアリーダーとして活躍するうえで必要な能力を高めることが出来たと思いますか」という問いに、外国青年の回答は、3（ある程度できた）以上が100%、4（出来た）以上は46%であった一方、日本参加者の回答は3（ある程度役立つ）以上が88%、4（役立つ）以上は64%であった。

#### ② 参加者間のネットワーク

「他国の青年と、今後につながるネットワークを築けたと思いますか。」という問いに対して、外国青年の回答は、3（ある程度できた）以上が85%、4（できた）以上は65%であった一方、日本参加者の回答は3（ある程度できた）以上が88%、4（できた）以上は76%であった。

「他分野の青年と、今後につながるネットワークを築けたと思いますか」という問いに対して、外国青年の回答は、3（ある程度できた）以上が85%、4（できた）以上は65%であった一方、日本参加者の回答は3（ある程度できた）以上が80%、4（できた）以上は64%であった。

#### ③ 参加者への将来の影響

「NPOマネジメントフォーラムでの経験は、あなたの将来に役立つと思いますか」という問いに、外国青年の回答は、4（役立つ）以上が85%、5（とても役立つ）以上は69%であった一方、日本参加者の回答は4（役立つ）以上が80%、5（とても役立つ）以上は44%であった。

### <地方プログラム>

#### ① 専門分野の知識

地方プログラムは、各分野に関連ある特定のテーマに沿って訪問プログラムを設定し、外国青年と団体関係者が意見交換を行い、事例を共有することを目的に実施された。

「あなたは自らの地域や団体において中心的リーダーとして活躍するのに重要な知識を向上させることができましたか」という問いに関して、4（できた）以上と回答した参加青年が、島根県で56%、石川県で78%、鹿児島県で67%であった。

#### ② 参加者間のネットワーク

「日本や他国のプロフェッショナルたちと将来に続くネットワークを築くことができましたか」という問いについて、4（できた）以上と回答した参加青年が、島根県で44%、石川県で56%、鹿児島県で78%であった。

### <全体プログラム>

#### ① 事業参加による参加青年の将来への影響

「地域における社会活動の中心的担い手として活躍していくことに対し、意欲が増しましたか」という問いに対して、3（ある程度増した）以上と回答した外国青年は78%であり、4（増した）以上は70%であった。

「このプログラムは今後のあなたのキャリアに役に立つと思いますか」という問いに対して、3（ある程度増した）以上と回答した外国青年は74%であり、4（増した）以上は56%であった。

#### ② 外国青年の成長（自己評価の向上度）

本事業に参加したことで向上した個人の学びについて、アンケートをもとに検証したところ、「日本に関する知識」「他者と協働する力」「異文化対応能力」「パブリックスピーキング」「チームワーク」「コミュニケーションスキル」「多国籍チームにおけるファシリテーション」「寛容さと尊重」「英語コミュニケーション」などの回答が得られた。

### 3. 総合評価

「日本青年派遣」では、訪問国プログラムの全体評価は、3（ある程度満足）以上の評価が100%であり、4（満足）以上が96%であった。「外国青年招へい」のプログラム全体の満足度は、3（ある程度満足）以上の評

価が78%であり、4（満足）以上が59%であった。

上記の評価より、青年たちの能力向上と成長、並びに分野と国を超えたネットワーク構築という観点において、今年度のプログラムは十分な成果を挙げたと結論付けることができよう。